

消防大学校における国際協力について

消防庁 消防大学校

教務部長 北出正俊

1 はじめに

消防大学校(以下「大学」という。)は、都道府県の消防事務に従事する職員及び市町村の消防職団員幹部に対し教育訓練を行うこと等を目的として消防庁に設置された教育訓練機関です。現在、本科、幹部研修科等の総合教育部並びに警防科、予防科、救急科及び救助科の専科教育部が、年間 14 課程開催され、毎年800名を超える学生が入校しています。

一昨年 9 月には発足以来延べ 2 万人目の卒業生(消防講習所時代を含む)が誕生し、全国の消防機関で多くの卒業生が幹部として活躍中です。

学生には不二寮への入寮が義務付けられ、入校期間中は、15 畳の和室に板張りの自習室が付いた寮室で、5～6 名が文字通り枕を並べ寝起きを共にする生活が続きます。

また、土曜・日曜は授業が行われず、朝寝も楽しめますが、月曜から金曜までの日課は、年間を通じて 6 時 30 分に起床し、国旗掲揚・点呼体操、清掃等の朝の日課、9 時から 17 時までの間の 7 時限授業及び入浴、夕食等の後、22 時の門限、22 時 30 分の消灯に終わるものです。なお、消灯後も自習室での自習が認められており、効果測定が近い頃などには、深夜まで点る明かりが見られます。

2 海外研修生の入校状況について

(1) 入校実績等

海外研修生の大学への入校については、昭和 37 年度の本科第 5 期に大韓民国から 4 名が入校したのを皮切りに、これまで大韓民国、中華民国及び中華人民共和国から合計 34 名が入校しています。(入校実績は表 1 を参照。なお、以下国名は略称を使用します。)海外研修生の入校希望については、国際協力の一環として、在日大使館を通じた要請又は国内の研修実施機関からの要請があった場合に、要請内容を検討し、日本語の語学力等を確認し、国内の入校希望状況等を勘案し、可能なものを受け入れています。

表 1 海外研修生の入校実績一覧

年度	国名：課程略称； 学生数
S. 37	韓国：本科； 4名
S. 41	台湾：本科； 1名
S. 42	台湾：本科； 2名
S. 43	台湾：本科； 1名
S. 44	韓国：警防； 1名&台湾：救急； 1名
S. 45	台湾：予防・機械； 各1名
S. 46	韓国：予防； 1名
S. 60	韓国：本科； 2名
S. 61	韓国：本科・予防； 各1名
S. 62	韓国：本科・救助・救急； 各1名
S. 63	韓国：救助・救急； 各1名
H. 元	韓国：警防； 1名&中国：本科； 2名
H.2	韓国：本科・救助； 各1名 & 中国：警防； 1名
H.3	中国：本科； 2名&韓国：救助； 1名
H.4	中国：本科； 2名&韓国：警防； 1名

特に、近年消防の国際交流が進む中、外国の消防機関からの手紙や国際電話による研修依頼や、相談を受けた国内の消防関係者からの問い合わせが増えていますが、大学では、こうした依頼等には、国際協力の窓口の一本化を図る観点から、在日大使館を通じ申し込むよう案内しています。

平成5年度には、中国の研修生の研修実績を持つ日本消防協会及び在日韓国大使館から相談を受けており、前年度と概ね同規模の海外研修生の入校が予定されています。

(2)海外研修生の学校生活

海外研修生の学校生活は、日本の学生と全く同じものです。

入校式に参加し、宣誓し、消防行政・地方行政・職員管理等の幹部職員に必要な日本語による講義を受講し、効果測定を受けます。

救助科等では、日本の学生と小隊を編成し、救助活動等の演習訓練を行います。

不二寮では、日本の学生と大部屋生活を送り、厚生部等の寮生の自治組織活動についても分担し、寮室代表として参加します。

海外研修生は一人ひとり違いますが、概ね勉強熱心です。図書室で図書を借り漢字を頼りに自習をしたり、視聴覚教材を活用し必要なものはダビングする等精力的に研修生活を送り、同室の学生から「海外研修生の姿勢がよい刺激となり充実した学校生活を送れました」との感想を聞く場合も多くあります。

また、海外研修生の寮室では、夜になると、講義で出た技術用語等で研修生の語学力では理解できなかった部分の確認と補習が行われます。更に、効果測定前には「最低これだけは暗記が必要」と、集中講座を開く寮室もあります。

一方、生活習慣の異なる者が数ヵ月間寝起きを共にすると、日常生活面の文化交流も進み、時には会話能力の不十分な中、筆談も交え白熱した議論を交わす場面もある様です。

研修生活を充実させる秘訣は、やはり日本語の語学力の程度にあると思われます。

このように、海外研修生は、研修生自身の多大な努力と、寮室仲間等の「一緒に入学した同期の仲間全員で卒業式に臨もう」という仲間意識の下での協力等により、講義の要点を理解し、必要な資料を収集し、5~6科目の効果測定を乗り越え、多くの日本の消防仲間をつくり、学友と揃って卒業して行きます。



写真1：5月の「記念祭」に寮友と一緒に「北国の春」を中国語で歌う中国の研修生(中央の2人)

(3) 海外の卒業生の状況

海外の卒業生の追跡調査は特に行っていませんが、折々の出会い等で近況を知る機会があります。最近の例をいくつか紹介します。

①中国からの研修生については、卒業後も半年程は日本の消防関係機関で研修を続けており、その間、機会を見つけては大学に元気な顔を見せてくれます。

②一昨年末に北京市消防局を訪問し、消防体制の充実整備について意見交換する機会がありましたが、本科の卒業生が通訳として技術用語を駆使したやり取りに参加しており、休憩時には担当教官の名前等を懐かしく話していました。また、北京市消防局では日本の消防月刊誌を購読しているとの事で、初対面の消防局長からも拙文の話題が出て、「中国では、大学の国際協力の成果が、帰国した後も組織的に活用されている」ことに感心しました。

③昨年、韓国の本科第 5 期の卒業生 4 名が、突然に大学を訪れました。彼らは卒業 30 年を記念し私的な旅行を計画したとのことで、厳しい日程の中に 1 時間の大学訪問を入れていました。学校施設を案内しましたが、当時の施設は昭和 39 年以降の大学施設整備により残っていません。案内した中で、特に救急科の演習用資機材に強い関心を示し、写真を撮り熱心に話し合っていました。

④先日、昨年 12 月に警防科を卒業した韓国の学生からは、「大学卒業生であることを誇りとし今から韓国の消防発展に努めていくこと、毎日NHK衛星放送を聞き日本語会話を勉強していること」等の便りが届きました。

3 海外からの個別研修の受入について

大学では、前述の入学方式のほか、随時、国内研修実施機関の協力依頼を受けて個別研修を実施しています。

以下、概要を紹介します。

(1) 消防行政管理者研修の受け入れ

消防庁では、国際協力事業団と協力して開発途上にあるアジア諸国等の消防職員を対象に各種の研修を毎年実施しています。

この内、消防管理者の養成に重点を置いた研修コースである消防行政管理者研修の研修科目には「消防幹部職員の教育」が含まれており、大学で半日研修が行われます。

平成 4 年度には、10 月にブルネイ、中国、香港、マレーシア、ネパール、フィリピン、スリランカ及びアラブ首長国連邦からの 8 名



写真 2：卒業式の後、大学校長と握手を交す韓国の研修生（右端）

の研修生が来校しました。

消防大学校長の歓迎挨拶の後、英語により、大学の設置目的、入校資格、教育訓練課程、学生生活等についての講義及び質疑が行われ、消防大学・消防学校と一般の高校・大学との違いや、卒業後の昇進制度等に関する質問がありました。

(2) 韓国消防公務員海外研修団の受け入れ

昨年6月、韓国内務部、12の消防本部・消防署及び消防学校の消防公務員の総員14名で構成された研修団が来校しました。

現在韓国では、地方自治制度整備の検討が進められる中、消防制度についても検討されており、研修団の目的は、日本・台湾・香港の消防制度の調査研修でした。また、大学での研修テーマは「消防公務員の採用及び教育訓練並びに教育科目等」でした。

消防大学校長の歓迎挨拶の後、英語により、消防組織法等関係法令、大学の入校資格・教育訓練課程等の講義及び質疑が行われ、今後地方自治体に消防学校を整備することのことで、熱心な質問がありました。

4 おわりに

昨年11月27日、マレーシア住宅地方自治省ティン大臣、ハッサン次官及びチャイ消



写真3：マレーシア住宅地方自治大臣一行を迎えてのビデオによる訓練状況の説明

防庁副長官が大学を訪問されました。この訪問は、自治省が企画する「アジア諸国の地方行政に携わる幹部職員との交流セミナー」に参加された機会を活用し、消防教育に係る情報交換を行うこと等を目的としたものです。日本の消防教育制度、大学の教育訓練の内容と海外研修生の受け入れ状況等広範な事項について、大学施設の案内及び昼食時間中を含め約3時間に渡り熱心な質疑が行われました。

大臣は、特に海外研修生の入校に関心を持たれたようですが、講義が日本の学生と一緒に日本語で進められることを確認されると、少し残念な御様子でした。

海外研修生向けの外国語による教育訓練課程を整備することは、大学の諸施設の状況等を勘案すると当面不可能ですが、今後も様々な機会を活用し、積極的に国際協力を進めて行きたいと考えています。